

国際金融論 中間試験 (60 分)

2009 年 11 月 27 日 実施

注意

- 数字で答える問題については、必要に応じて「単位」をつけること。
- アルファベットやギリシャ文字を用いる場合、講義で用いたものと異なる場合は「k は円資産の利子率を表す」などのように定義すること。講義と同じ意味で用いる場合は定義不要。
- 解答の分量の目安を明示しているので、解答作成の参考にすること。どこまで詳しく説明すればよいかを考える際に参考になるはずである。

第 1 問 以下の各問に簡潔に答えなさい(各問ひとことで答える。答えのみでよい。説明は不要)(5 点)

1. 日本の GDP はこの数年だいたいどのくらいか。(10 点)
2. この 1 ヶ月間、円＝ドル・レートはだいたいいくらで推移しているか。(5 点)
3. 日本の経常収支は、この 20 年一貫して赤字か黒字か。あるいはだいたいバランスしているか。(5 点)
4. 3 と同じ期間、日本の広義の資本収支の傾向はどうであったか。(5 点)
5. アメリカの対外純資産はこの 20 年どう推移しているか(額を聞いているのではない)。(5 点)
6. ある年の国際収支統計で外貨準備増減が赤字であったとする。この年、中央銀行の保有するドル準備はどのように変化したと考えられるか。(5 点)

第 2 問 以下の各問に答えなさい(それぞれ 5 行程度で)。(各 10 点)

1. 流動性とは資産のどのような性質のことか、具体例も交えつつ説明しなさい。
2. アメリカの利子率が日本の利子率を上回っているとき、今後のドルの動向に関する市場(参加者)の予想はどうなっていると考えられるか、説明しなさい。ただし、外国為替市場の需給は一致しているとする(つまり、現行の利子率のもと金利平価が成立している)。
3. 現在、3 ヶ月先物ドルが 1 ドル 92 円で取引されているとする。3 ヶ月後の直物レートが 1 ドル 94 円になると予想しているとき、あなたは先物ドルの売り手になるべきか、あるいは買い手になるべきか。説明しなさい。

第 3 問 以下の各問に答えなさい。

1. 経常赤字を減らすためには財政赤字を減らすことが必要であると言われる。このことの背後にあるロジックを説明しなさい(5～7 行程度)。(10 点)
2. 現在、日本の利子率が 3 パーセント、アメリカの利子率が 3 パーセント、市場参加者の 1 年後の円＝ドル・レートの予想値が 1 ドル 100 円であるとする(全部で 10～20 行程度)。
 - (1) このとき、現在の為替レートは理論上いくらになるか、簡潔に説明しなさい。(5 点)
 - (2) 今、アメリカの利子率が 5 パーセントに上昇したとする。このとき、外国為替市場におけるドルの需給はどうか。また、どのようなプロセスを経て再び需給が一致するか。順を追ってなるべく丁寧に説明しなさい。ただし、アメリカの利子率上昇によって市場参加者の為替レートの予想値は変わらないとする。(15 点)
 - (3) さらに、そのときの新たな円＝ドル・レートはだいたいいくらになるか、計算しなさい(計算式も簡単に説明すること)。(2)と(3)は分離して答えずに、いっしょに解答してもよい。(5 点)